

東京税理士会西新井支部支部長賞

「世の中の面白い税」

足立区立 第十四中学校

三年 堀之内 花梨

私は、この作文を書くまで、税金について詳しく知りませんでした。だから、この機会に税の知識を深めるため、世界にある面白い税について調べてみたので、紹介します。

まず、私の目についたのは、「ポテトチップス税」です。この税は、ハンガリーにあり、国民の肥満防上を目的として作られたそうです。スナック菓子、ケーキ、清涼飲料水、栄養ドリンクなどの塩分や糖度の高い商品に対して課される税金なのだそうです。とてもインパクトのある名前の税金で、面白いですね。次に私が興味を持った税は、「独身税」です。1968年から1989年まで、ブルガリアで導入されていました。当時、ブルガリアでは少子化が進んでいたため、多くの人に結婚して家庭を持ってもらうために、独身者の収入に対して5%の税率で税が課されていたそうです。結果としては、出生率は21年間で2.18から1.86に下がってしまっただけ、独身税は1989年に廃止となりました。多様化が叫ばれている現代に、独身だというだけで税が課されてしまっただけ、たまらないですね。あまり時代に合った税だとは言えないと感じました。続いて、3つ目の税は、カエル税です。これは、中世のフランスで、領主の睡眠を妨げるかえるの鳴き声を止

めさせるための、労働で納める税であったようで、領民は交替で水面をたたき、かえるが鳴くのを防いだそうです。昔は、かえるがうるさいために税を課すなんてことがあったのですね。今ではありえない税です。

世界には、たくさん興味深い税がある・あったことが、調べてみて分かりました。その中で、「森林環境税」という税が、2024年から新たに導入されたことを知りました。森林環境税とは、1人につき年額1000円を市区町村が賦課する国税です。適切な森林整備をしながら、日本の温室効果ガス排出量削減目標の達成や、災害の防止などを図ることを目的に創設されました。そこで、森林環境税に着想を得て、自分で税金を考えてみました。私が考えた税は、「海洋環境税」です。これは、乱獲や環境の変化によって、魚がいなくなるのを防ぐために毎年一定の額が賦課される、という税です。このままだと、日本食を代表するお寿司や、焼き魚が食べられなくなってしまうかもしれません。日本の文化を守るためにも、みんなが協力し合って未来の環境を守っていきませんか。